

＜アユモドキ等の自然と共生するスタジアムを目指した新たな事業方式＞

(Ver.1 平成27年5月12日修正版)

資料2

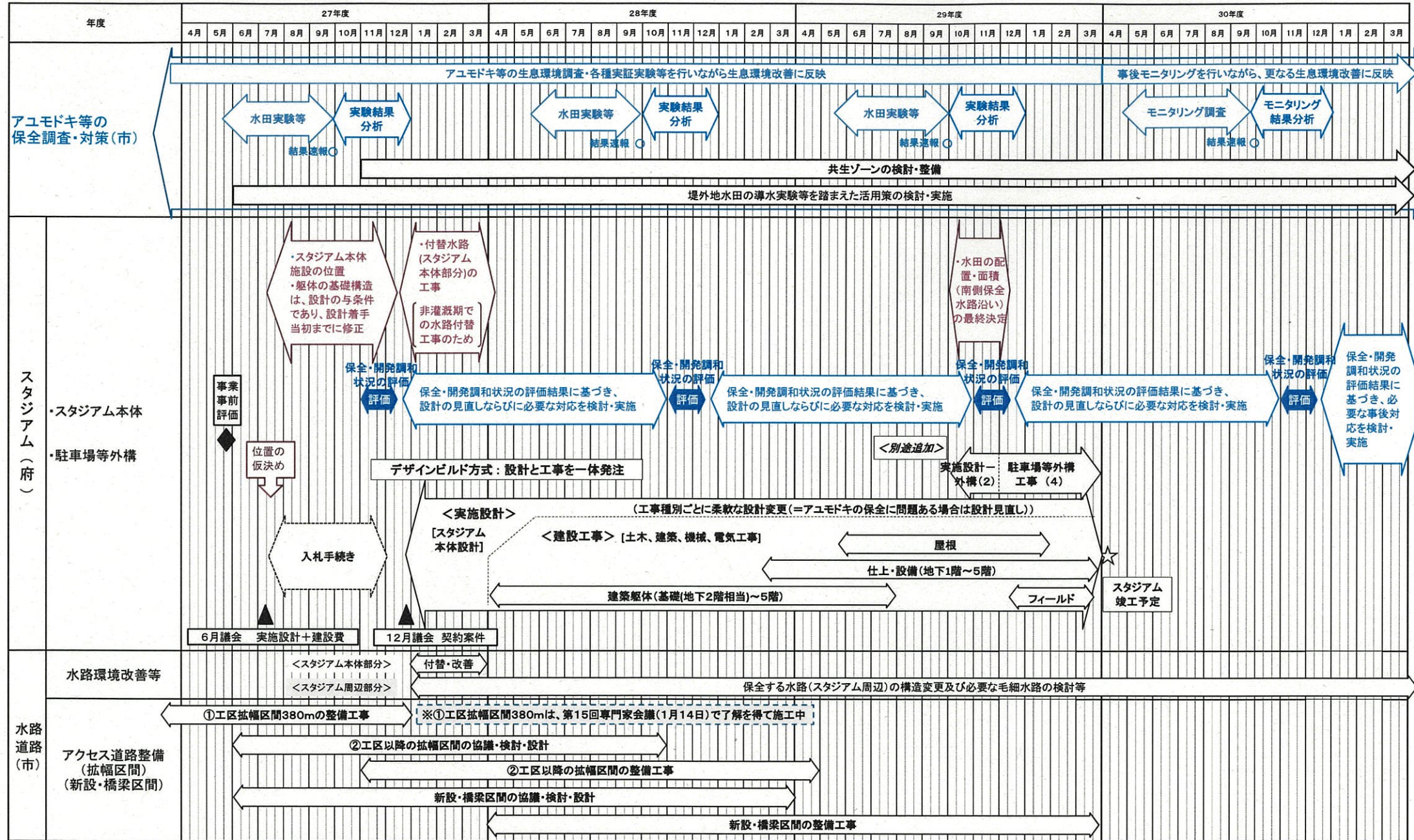
公開

●「保全調査・対策」と「新建設事業手法(実施設計と建設工事を柔軟かつ併走で実施する手法)」を組合わせた保全と開発の調和を実現する新たな公共事業方式の導入(調査・実証実験結果反映型(保全・開発調和型)新公共事業モデル)

①設計段階はもちろん、施工段階においても、環境保全専門家会議の議論の結果を工事内容に反映させるため、「デザインビルド方式」により、工事種別ごとに柔軟な設計変更(＝アユモドキの保全に問題ある場合は設計見直し)に対応するとともに、アユモドキ保全に影響を与えると考えられる水田の配置や面積については、実証実験結果を踏まえて最終決定するため、後年度に駐車場等外構工事を「別途追加」

②更に、アユモドキと共生するための新たな取り組みとして、広域的な生息環境改善対策をハード・ソフト両面にわたり、スタジアム整備と合わせて総合的・計画的に推進

◆京都スタジアム(仮称)整備のスケジュール(素案)



※ スタジアム本体施設の位置については、平成27年度の水田環境実証実験結果等に基づいて問題ある場合は見直しを行う。
 ※ アクセス道路整備：拡幅区間＝宇津根橋～スタジアム(東西方向)、新設・橋りょう区間＝スタジアム～亀岡駅方面(南北方向)

◆共生のための新たな取り組み(広域的な生息環境改善対策)のスケジュール(素案)



※ この他、用排水兼用の水路などがある周辺農地を文化的景観として保全していくことや、地下水の水位・水質保全のための広域的な取り組みなどの必要性についても議論する。